

## 総監の勉強から得られたもの



取得した資格：技術士（総合技術監理部門）  
資格取得年度：令和4年度

わた なべ こう すけ\*  
渡 部 公 亮\*

### 1. 受験の動機

令和元年度に技術士（上下水道部門）に合格後、次は総合技術監理部門（以下「総監部門」という。）を取得したいと思っていました。それは、総監部門が上下水道部門などの一般部門よりも上位の資格であるので、より箔が付くのでは程度のノリで考えていました。しかし、総監部門は他の20部門（以下「一般部門」という。）の上位ではなく、それ独自の21番目の部門であることを、実際に勉強していくなかで学んでいきました。総合技術監理とは、業務全体を俯瞰的・総合的な視点から、全体をマネジメントできる管理能力であり、また中長期的視野で組織を向上させることができる技術であると知り、自分もその能力を身に付け、業務に生かしていきたいと思い、一層資格取得への意欲が湧いてきました。

### 2. 出願対策（受験願書・経歴票・小論文）

この願書は、筆記試験を合格した後の口頭試験の際に最重要となる書類のため、申込の時点では、軽視しがちです。特に、一般部門のように、専門の技術力をアピールするような書き方では、口頭試験で相当苦勞すると思います。総監部門は、他の部門の延長上にあるのではなく、それ独自の部門であることを認識の方がよいです。自分の経歴や業務を総監の管理体系である5管理（経済性管理、人的資源管理、情報管理、安全管理、社会環境管理）に落とし込んでみる作業から入ります。初めは意味が分からないかもしれませんが、勉強していくうちに段々と理解できていきます。これから受験される方は一

度、総監技術士の方に添削をお願いした方がよいと思います。

### 3. 筆記試験対策

択一式は、文部科学省が出している『総合技術監理 キーワード集』にある約950のキーワードからほとんどが出題されます。出題数は40問を2時間で解答します。択一式は過去問を解くことも必要ですが、せいぜい5年分くらいでよいかと思います。というのも問題には法令関係も多く出され、常に最新のものが対象となります。そのため、改正が行われた法令等は常にチェックしておいたほうがよいです。環境白書、情報白書など白書類も同様です。また、『総合技術監理 キーワード集』は毎年改訂が行われており、追加されるキーワードは要注意です。勉強法としては、キーワードを覚えるのではなく、そのキーワードから派生する仕組みや背景、用語を調べ、過去問も単純に○×で終わるのでなく、何故正しいのか、どこが間違っているのかを調べていけば、より理解が深まり、記憶されやすいと思います。私もそうでしたが、土木系の方はキャッシュフローや原価管理などの経済用語はとっつきにくいので、不得意分野をなくしていくのも必要かと思います。

記述式は、600字×5枚を3時間30分で解答します。最初は参考書、合格答案例などを見て、そのまま書き写す作業をひたすら繰り返しました。何パターンか書くうちに、論文の構成や展開がつかめるようになりました。次に行ったのが、総監の5管理を理解し、キーワード集にある言葉を用いて、論文

\*佐世保市 水道局 事業部 水道管路整備課 IR推進室 係長

の骨子を作っていました。出題傾向は、毎年似ているため、1枚目に書く事業概要をあらかじめ2～3パターン用意しておくことをお勧めします。

#### 4. 口頭試験対策

一般部門ではコンピテンシーに関する事項が問われますが、総監の口頭試験は、総監の頭になっているかが試されます。ある課題に対し、個別の技術力を使って解決したのではなく、トレードオフなる事項があった場合、何が最優先かを判断し全体の最適化を図る解決法が問われます。一般部門と比べて、どんな質問が飛んでくるかが分かりません。例えば、「あなたが市長だったとして、大規模災害が起きた時、どのような対応を行うか総監の視点で教えてください。」のような、ある程度準備していないと答えられない質問もあります。そのため、模擬面接を何度も行い、総監の頭にしておくことが肝要です。

#### 5. おわりに

総監部門は、他の20部門と比べて取得するメリットや違いがわからないなど、総監資格そのものの意義が問われています。そのため、苦勞して何のため取得するかという動機付けに繋がりにくいのも事実だと思います。しかし、今回行った総監の勉強は、上下水道部門の時よりも役立ったと感じています。上下水道部門の時は、これまでの業務で培った技術や知識を論理立てて文章に起こす作業のような感覚でしたが、総監部門は、5つの管理をもとに全体をマネジメントしていく考え方を学ぶことができます。そして、中長期的な視野から組織の維持・向上をマネジメントしていくことは、公務員技術者にこそ求められる技術力ではないかと思えます。最後になりますが、私は40代になってからの受験でしたので、記憶力との戦いでした。技術士試験に限らず資格取得を目指すなら、頭の柔らかい20代、30代の頃からぜひチャレンジしてみてください。早過ぎて損することはありませんし、その努力は決して無駄にはなりません。

【著者紹介】 渡部 公亮（わたなべ こうすけ）

平成12年度に佐世保市入庁（土木職）。平成16年度に水道局へ異動。水道局では、管路更新の設計・監督、マッピングシステム導入に関する計画立案、アセットマネジメント構築に伴う管路更新の評価・診断などの職務を経て現職。

## Dr.クマの“健康のヒント”

### まだ気を緩められない



新型コロナウイルス感染症が5月に5類感染症に指定されて以降、行動の規制がほぼなくなり人々は徐々に以前の生活に戻っている。電車移動の際に、マスクをしている人の数もどんどん減ってきている。なんとなく、コロナは終わったという気になっている人は多いのではないだろうか。感染者の実数把握が行われておらず、定点観測による傾向が発表されるだけなので、無理もない部分はあるが、このところ感染者は確実に増えている。また、期待していた弱毒化もはっきりしておらず、重症化する患者さんが一定数存在するという印象を持っている。高リスクの方はもちろんであるが、若年者でも非常に強い喉の痛みで食事ができない例などもあり、ただの風

邪と軽視してはいけなし、気を緩められる状況ではない。さらに追い打ちをかけているのがインフルエンザである。9月現在、大流行の気配だ。コロナ対策下では流行が見られておらず、免疫が薄れた状態であること、マスク、手洗いなどの一般的な対策が十分ではないことがこの流行に関連していると思われる。コロナもインフルエンザも重症化から死亡といった経過がありうる感染症だ。自分と身の回り人たちを守るための感染症対策をもう一度思い出す必要がある。これはいかんと思ったあなた、手洗いと必要に応じたマスクの使用を思い出そう。

北里大学名誉教授 熊谷 雄治